



かがみ



地域社会全体で子どもを見守る

～ 子どもの安全・安心を守るための取組や支援等について ～

全国的に、子どもが交通事故や犯罪に巻き込まれる痛ましい事案が発生していることから、これまで以上に地域社会が一体となった子どもの安全・安心を守る活動の一層の充実が求められています。しかし、長期化するコロナ禍の影響により、多くの活動が自粛される中、地域の安全・安心のための見守り活動等も制限されています。このような状況ではありますが、地域社会全体では、様々な工夫と協力により子どもの見守り活動等の取組が推進されています。

今回は、子どもの安全・安心を守る活動の具体的な取組や支援等について紹介します。

1 青森県警察スクールサポーター（以下「スクールサポーター」）制度を活用した取組

本制度は、学校内や登下校時における子どもの安全確保に関する取組を強化することを目的に設けられ、令和2年4月現在、全国で約860人のスクールサポーターが従事しています。

本県では、平成19年度より青森警察署に、警察OBのスクールサポーター1名を配置していましたが、本年4月からは、八戸警察署に配置されることになりました。

今後、八戸警察署では、子どもの安全・安心を守るために、防犯教室や見守り活動等の取組を通して、各学校を支援していくこととしています。

2 「安全笛」、「防犯ブザー」の寄贈による支援

令和3年度、八戸市では、小学校新1年生を対象に、日本マクドナルド株式会社より「安全笛」、株式会社青森テレビより「じん子ちゃん防犯ブザー」の寄贈を受け、子どもの防犯対策のために役立てています。

「安全笛」	「じん子ちゃん防犯ブザー」
<p>日本マクドナルド株式会社では、地域と共に安心な街づくりを目指し、「こども110番の家」関連事業への支援の一環として、毎年、全国の小学校新1年生を対象に、「ピーッ」と大きな音で危険を知らせることができる「安全笛」を寄贈しています。</p> 	<p>株式会社青森テレビでは、令和元年に開局50周年を迎えたことを記念し、県内の子どもたちを見守り・応援していく企画「『ゆめ・たま』キャンペーン」を新たに展開し、県内の小学校新1年生を対象に「じん子ちゃん防犯ブザー」を寄贈しています。</p> 

3 登下校時間帯の「ながら見守り」活動への参加の推奨

(文部科学省「やってみよう！登下校見守り活動ハンドブック」参照)

決められた人や団体だけが見守りをするのではなく、市民総ぐるみで、登下校時間帯に合わせて、花に水やりをする、家の前で掃き掃除をする、通勤時間をずらす、犬の散歩をする等、何かをしながら子どもを見守る「ながら見守り」活動に参加することで、子どもが安全で安心して登下校することができ、さらには地域の防犯にも大きな効果が期待されます。

コロナ禍でも、一人一人が、無理なくできる範囲で、子どもや地域へ目を向け見守り活動等に参加することで、犯罪が起きにくい環境をつくることができます。

日常の小さな取組の積み重ねによって、地域社会全体で子どもの安全・安心を守る環境が生まれ、地域のコミュニティの活性化も期待できることから、今後も、地域社会全体で一致団結して連携・協働しながら、子どもの健全育成に取り組んでいきましょう。



たかがマスク、されどマスク

八戸市教育委員会 教育長 伊藤 博章

- ◆ 「目は口ほどにものを言う」とは、何も言わなくても眼差しだけで思いや気持ちが伝わるものだという意味のことわざだ。先日、通りすがりの人に会釈され、とっさに会釈を返したものの肝心の名前が思い出せなかった。
- ◆ 学校はもちろん家庭内でも、大人も子どももマスクで顔が半分隠れている状態が日常になった。マスクを外せる学校給食や飲食店では、飛沫を防ぐ感染症対策のひとつとして「黙食」が推奨されている。コロナ禍で子どもたちは休み時間や給食の語らい、放課後の遊びなど人間関係を深める自然な触れ合いさえも制限されてしまった。人とのコミュニケーションの場がうばわれ、大人も子どもたちも大きなストレスを抱えている。
- ◆ 令和3年1月に、東京都の小・中学校の養護教諭を対象にアンケート調査が行われた。調査項目の一つ「今後もコロナ禍の状況が続くと想定したときに、最も心配されることは何か」については、小・中学校ともに多かったのが「クラスターの発生」「感染拡大」「ストレス」「健康管理」「メンタルヘルス」との回答結果であった。おそらく当市でも同様のことが懸念される。
- ◆ 新しい生活様式に慣れてきてはいるが、見える学習成果とは異なり、子どもの不安やストレスは見えにくい。見えないからこそ、学校でも家庭でも、大人がこれまで以上に子どもの心に寄り添い、注意深く見守ってあげることが大事だ。コミュニケーションにおいて、話す内容以上に表情・声といった言葉以外の部分がとても大切だと思う。マスクに隠れた子どもたちの心の声を聞き逃してはならない。
- ◆ 夏本番を迎えた。コロナ下で、ここまで乗り越えてこられた児童生徒、保護者、そして教職員の皆さんに、感謝を込めて小職から、毛里 武の一編の詩を贈ります。
どうぞ、思い出に残る素敵な夏休みになりますように…

校舎を見上げると

学校は不思議なところだ

わずか数年で すべての人が入り替わり

あっという間に 知らない人ばかり

でもそこには

自分たちが取り組んできたものが

「伝統」として残っている

その姿を見ていると 思い出す

あなたの笑顔、あなたの声を

そして同じ時代を共にすごした

かけがえのない時間

胸の内に刻まれた

美しい風景が

校舎の向こう側によみがえる

